

第5回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

1 開催日時 平成24年11月30日(金) 午後3時00分から午後5時10分まで

2 開催場所 ツインメッセ静岡中央棟4階 406・407 会議室

3 出席者 【委員】

二渡委員、本多委員、太田委員、実石委員、山梨委員、杉山委員、秋元委員、
内海委員、中村委員、藤田委員(欠席 松永委員、鶴田委員)

【事務局】

三輪地域産業課長、森参事、吉川統括、河合統括、頭師副主幹、浅沼副主幹、
石塚副主幹、佐藤副主幹、望月主査、山田主任主事、澤野主任主事、
斉藤主任主事、高柳主事

4 傍聴者 一般傍聴者 なし、新聞記者 なし

5 開 会 三輪地域産業課長

6 あいさつ 二渡会長

皆様、お久しぶりでございます。本日は、第5回のものづくり産業振興審議会として、先ほどの課長のご挨拶にもありまして、地域産業課が担当する事業について、進捗状況をご報告いただき、それに対しまして皆様で審議を進めていくという機会になります。ところで、今朝の新聞をご覧いただいたでしょうか。日本の産業界の現況を象徴するような記事が掲載されておりました。それは、日立製作所と三菱重工の電力部門が合併し、火力発電事業の統合を図るという内容の記載とともに、将来的には原子力事業をはじめ、それぞれが有する各種事業について徐々に併合を試みるとも書かれておりました。なぜ今、日本を代表する二大企業が統合を図ろうとしているのかと申しますと、日本を取り巻く世界経済の潮流が根底にあり、アメリカのGEとドイツのシーメンスの世界的企業との競争に対峙する国家的な経営戦略の一端と解することができます。つまり、国内における重要な産業部門が体裁などを捨て去って手を組まなければ、世界市場での激的な競争に打ち勝ていけない状況がそこにあるものと考えられます。また、このようなことは、大企業のみならず、地場産業を支える中小企業にとっても同様の状況に接しているものと推察されます。本日は、これから地域産業課の担当事業について事務局から中間報告をお聴きいたしますが、ものづくり審議会委員として市民から負託された私達は、これからの静岡市におけるものづくり産業を考える上で、従来の固定観念を払拭するとともに、前述した世界的な経済情勢などに関する共通認識を持つとともに、公に属する者の社会的な使命や責任に基づくノーブレッセオブリージの立場からも審議に臨む必要があるのではないかと考えてなりません。そして、この審議会が英知を結集し、あのときに議論して意味があったと、後々に思いを馳せることができるような議論を皆様と一緒に進めたいとも考えておりますので、よろしく願いいたします。それでは、議事に入りたいと思いますが、その前に会議の傍聴及び公開について、確認させていただきます。静岡市では附属機関等の設置及び運営に関する指針に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。今回の会議について、非公開事由となる情報は含まれて

おりませんので、公開としてよいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

ご賛同をいただきましたので、公開といたします。なお、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、その旨を決定することになりますので、よろしくお願ひいたします。また、会議録についても公開となります。事務局で会議録を作成し、その後に会長である私と、もう1人の委員からご署名をいただいて公開の手続きといたします。本日の議事録署名人については、藤田委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【藤田委員】

分かりました。

【二渡会長】

それでは、よろしくお願ひいたします。傍聴の方がありましたら、どうぞお入りください。

(事務局：森地域産業課参事)

只今のところ、傍聴希望の方はいらっしゃいません。途中でいらっしゃいましたら、入室していただきます。

【二渡会長】

分かりました。それでは、議事に移りたいと思います。一つ目の地域産業課担当事業の進捗管理状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

まず、事務局から各部会の中間報告について、ご説明いたします。皆様のお手元にある議事(1)地域産業課担当事業の進捗状況についてという資料をご覧ください。本日は、そこに記載されているとおりの順番で伝統工芸創造部会から適宜資料を用いて中間報告を行います。また、①の段階で一通り各部会からの報告を行いまして、次の②の段階で中間報告全体を通した意見交換などをまとめて行っていただきます。それから、最初の伝統工芸創造部会では、本日もご出席いただいた皆様との間で、伝統工芸に関する情報の共有化や認識の平準化を図るために、約1時間の資料映像をご覧いただきたいと思ひます。そして、本日、皆様にお配りしました伝統工芸創造部会の資料ですが、先ほどの当課々長のあいさつにもありましたとおり、事業の検討を図る上で、アシスタントである二渡会長からのアドバイスに基づきまして、現在、作成しているものであります。まだ、十分な仕上がりとはなっておりませんが、本日の伝統工芸創造部会中間報告の参考資料として配布させていただきましたので、適宜ご確認をお願いできればと考えております。さらに、参考資料の内容については、今後、伝統工芸創造部会で詳細を協議し、その後、必要に応じて、審議会にお知らせしていく方向で進めていければと考えております。最後になりますが、各部会からの中間報告にあたっては、お手元の資料に則しまして、部会長ならびに事務担当者を中心に報告をお願いしたいと思ひます。以上であります。

【二渡会長】

ありがとうございました。それでは、資料映像を皆様にご覧いただくところから、伝統工芸創造部会の中間報告を始めてください。補足しますと、すでにこの映像をご覧になられた方もあろうかと思いますが、内容はNHKが放映した今年度の日本伝統工芸展における入賞16作品とその作者を紹介しております。日頃、伝統工芸に関わられていない方にとっては、伝統工芸に対する認識を共有化する資料として、また、今後の静岡市における伝統工芸を語るためにも重要な示唆を与えてくれる映像だと思います。伝統工芸を理解されている方には、確認等の意味合いからしばらくのお時間、皆様とお付き合いいただきたいと思います。事務局で用意した資料映像を鑑賞し、秀でた日本の伝統工芸を真摯に学ぶ機会にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【杉山委員】

ちょっと確認させていただきませんが、今後の審議等について、1時間程度の資料映像の鑑賞がどのような関係にあるのか教えていただけますでしょうか。

【二渡会長】

これからの静岡市における伝統工芸の将来を皆さんとともに考えていく上での必要な資料の一つとしてご覧をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(伝統工芸に関する資料映像鑑賞)

【二渡会長】

ありがとうございました。皆様、いかがだったでしょうか。今、1時間近く卓越した日本の伝統工芸作品をご覧いただきましたが、おそらく、事務局のお考えは、優れた作品そのものに加えて、そこに携わる人々の考え方や生き様にも注目してほしいとの願いもあったのではないかと思います。この鑑賞機会が、すぐに静岡市の伝統工芸に役立つような性急なお考えはないように思えますが、今後の静岡市における伝統工芸を考え、議論を重ねていくための一助として、ご理解ご活用をいただければいいのではないかと思います。このようなことを踏まえまして、今後、皆様には静岡市の伝統工芸を応援していただきたいと思います。それでは、6つの部会からの報告を順番に行っていただきますが、伝統工芸創造部会の続きとして、事務担当の頭師さんの方から、まとめられた資料などに基づきまして中間報告をお願いいたします。

(事務局：頭師地域産業課副主幹)

伝統工芸創造部会を担当している頭師と申します。よろしくお願いいたします。お手元に二渡会長からアドバイスをいただいた事項をもとに、静岡市の伝統工芸に関する補足参考資料を作成し、本日配布させていただきました。皆様には適宜ご覧いただきまして、今後の審議にお役立ていただければと思います。さて、中間報告にあたりまして、基本的にお手元の進捗管理票により進めていきたいと思いますが、伝統工芸創造部会では事業8のクラフトマンサポート事業の拡充をはじめ、計5つの事業を担当しております。それでは、事業8のクラフトマンサポート事業がありますが、現在、長期の2年と短期の1年という枠組みで事業を進めておりますが、杉山委員をはじめ、業界から期間の設定が短期的ではないかのご指摘をいただいております。当課としましては、庁内の法規担当などと協議を進めており、今年度中には方向性を見出していきたいと

考えております。次いで、事業10の若手グループの商品開発支援であります。主に財団法人静岡産業振興協会で開催しているものでありまして、すでに4～5回の講習会やセミナーを開催しており、年度末に向けて2～3回の講習会等を開催し、若手グループの支援に取り組んでいきたいと考えております。そして、事業29のアーティストとのコラボレーション支援推進事業であります。これはデザイン性等の追及を主眼にアーティストとの協働の中で、地元事業者を支援していく内容のものであります。すでに、伝統工芸を含む11事業者から応募をいただくとともに、デザイナーを公募し同様に11名を選定したところであります。この事業は通算2か年度の期間をもって実施されるものであり、今年度における事業者等の選定を経て、来年度の試作品制作や展示会出品などへの事業展開を図るために取り組んでいる最中であり。この場合、製作品がデザイナーの指向に偏重する傾向が強くなることのご指摘もありますので、職人を含む事業者とデザイナーの連携を円滑にし、商品開発に努めていきたいと考えております。四つ目の事業30、新産業開発振興機構の活用に関する検討であります。これについては、デザイナーに新産業開発振興機構が余り認知されていないことのご指摘もいただいておりますので、先ほどの若手グループの商品開発支援事業との協調を図りながら、当該機構を積極的に周知し、新たな商品開発と若手グループに向けた支援の両立に取り組んでいきたいと考えております。最後の事業47、静岡市ブランド認証事業の拡充であります。すでに事業開始から4年目を迎え、今年度の認証申請も30事業所32品目との喜ばしい状況に至っております。現在のところ、8月末から約1か月間の募集期間を経まして、申請書類の確認等に関する第1次審査を実施しております。また、今週はじめには17件の1次審査通過事業者により、プレゼンテーションが実施され、その第2次審査を終えたところであります。しずおか葵プレミアムの認証に関する審査結果については、今年度中に取り決め、併せて認証式を年度末付近に開催する予定となっております。伝統工芸創造部会の5事業については、以上のような状況にあることをご報告するとともに、今後も皆様のご意見を参照し、各事業の進捗管理を進めていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。補足参考資料は、皆様にご覧いただくということでよろしいですか。頭師さんの方で、静岡市の伝統工芸に関する資料として、多様な角度から丁寧にまとめたいただきましたので、皆様には熟読をお願いしたいと思います。それから、伝統工芸創造部会での議論に際して、現状認識等に係る基本的な資料としてご活用いただければと思います。

(事務局：頭師地域産業課副主幹)

そのようにお取扱いいただければと思います。

【本多副会長】

そうですね。伝統工芸創造部会の部会長として、そのように努めます。

【二渡会長】

それでは、個別の議論は最後に行うとしまして、次に調査研究部会に移りたいと思います。この部会は私が部会長となっている訳であります。前回の部会を体調不良のため、やむを得ず欠席いたしました。当日は、部会員の村中委員と太田委員のお二人にご尽力いただいた次第であり

ますので、部会でポイントとなった事項をお一人ずつ簡単にコメントしていただけますでしょうか。そして、最後に事務担当の佐藤さんの方に全般をまとめていただき、調査研究部会の中間報告としたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

【中村委員】

前回の部会の中では、産学官交流への着目を例にとりて考えてみたことがあります。調査研究部会の事業に間接的に関わることとして、静岡大学や静岡県立大学などの地元の研究機関と連携事業を行った際に、その運営が効率よく円滑に進められるような仕組みが重要であると感じました。当部会は、そのような研究機関との交流を前提とした事業も抱えておりますので、進捗管理を図る上からも、その点に関して一つ思案が必要ではないかと思われま。

【二渡会長】

今後、部会或いは該当事業をサポートする仕組みが必要ではないかというご意見でしょうか。その点については、事務局で何かお考えがあるように感じ取れますが。

【中村委員】

これまでの事務局の取り組みを見ましても、工夫されている点を随分と理解できますし、今後も、今申し上げたようなことを具体的に進めていけば、相互に馴染みが生じることで円滑化や効率化などが進展していくものと思います。

【二渡委員】

ありがとうございました。では、太田委員、よろしくお願いいたします。

【太田委員】

北九州市の調査について、一言申し上げます。本日の資料には、調査研究に関するスライドを載せさせていただき、今後、年末までに暫定的な報告書を作成する予定であります。調査の概要を申し上げますと、工業都市北九州市の産業振興施策は、相応の予算規模を有して取り組まれているものと感じられました。これは、国内工業の右肩下がりにも同調する一つの傾向への対策として、予算と人材を投入されていると考えられます。しかし、静岡市の製造業を中心とするものづくり産業の立場から考えますと、現行の北九州市における施策展開が、果たして静岡市のそれに上手く符合するのか、さらに、地場産業の蓄積や関連を考慮した施策展開などの点において、今後、議論が必要ではないかと感じております。

【二渡会長】

ありがとうございました。事務担当に全般を取りまとめていただく前に、皆様に部会長として一言だけ申し上げます。当部会が担当する事業に、理工系大学の誘致及び市内既存大学における工学部新設の検討と称するものがありますが、名古屋市や広島市などの政令指定都市の中で工学部や医学部を有していない都市は、静岡市だけあります。今後、ものづくり産業の高度化を図る上で、今申し上げた背景や課題への取り組みとして、当該事業が基本計画に記載されている訳であります。また、このような事業はそれこそ大規模な予算額等を伴い、相応の時間を費やして進められていくものである一方、簡単に進展が図れない側面も併せて持ち合わせているものであ

ります。しかしながら、静岡市のものづくり産業の高度化を模索するためには、今、着手しておかなければ、先行きがなお困難になる点も、同時に考慮すべき重要な事項として捉えておく必要があるものと考えられます。それから、静岡市のものづくり産業の将来像を読む中では、現状を放置した場合における認識に加え、将来の到達地点を見定めた認識のもとで、何をどのように組み立て、いかなる対処を図るのかということが非常に大切であるとともに基本的な手法であるとも思えます。その上で、静岡市のものづくり産業の推移や外的要因等を踏まえた今後の動向に関するシミュレーションに取り組んでおかなければ、今後への方針や対応策も打ち出せないのではないかと考えられます。これが、産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討事業や地域間競争に臨む戦略的方策の検討事業に係る中軸とご認識いただきたいと思います。太田委員、このような解釈でよろしいですね。

【太田委員】

そのとおりだと思います。

【二渡会長】

このようなことから、これらの関連事業を調査研究部会で鋭意取り組まなければならないと考えている次第であります。それでは、事務担当からのご報告をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

調査研究部会を担当する佐藤と申します。よろしくお願いいたします。調査研究部会では理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討事業をはじめ、計5つの事業を担当しており、各事業におけるこれまでの経緯を含めまして、簡単ではありますが中間報告をいたします。皆様には、すでにお配りした資料のほか、お手元の事業概要書の補足資料を適宜ご覧いただきながら、お聞きいただければと思います。まず、事業4の理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討事業では、本市近郊を含めた既存資源へのアプローチとして、静岡理工科大学及び同大学法人本部をお訪ねし、ものづくり基本計画の策定や関連事業のご説明を行ったところであります。静岡理工科大学及び同大学法人本部からは、当該事業への取り組みに関する具体的なコメントは得られなかったものの、今後の関係構築に前向きなご理解をお示しいただきましたので、これからも継続的に協議を重ねてまいりたいと考えております。本日の配布資料には、参考まで静岡理工科大学等のパンフレット写しを添付いたしましたので、ご覧いただければと思います。次に、事業33の産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討事業であります。この事業は次に控える事業34の地域間競争に臨む戦略的方策等の検討事業とも、関連性の深い事業でありますので、双方の事業を同時並行的に取り組んでいきたいと考えております。この事業に関しましては、あくまでも来年度予算等の確定を待たなければなりません。次期ものづくり基本計画の策定案を検討するための基礎資料整備に主眼を置いたものとして、今後、県内大学の経済系及び経営系に所属される3人程度の大学教員、調査研究部会、地域産業課の三者を中心に実効性のある組織構成を持ちまして、順次、関連する取り組みを進めてまいります。そして、事業35のものづくり先進都市等に関する調査研究事業については、本年7月下旬に部会員の太田委員、当課の山田主任主事、私の3人で工業先進都市の北九州市を訪問し、学研都市やイノベーションギャラリーのほか、卓越した技能者を取り扱うマイスター制度などを見聞してまいりました。調査概要の一端を申し上げますと、本市のものづくり産業の支援施策と比較して、そ

の施策数と予算額などに大きな開きをもって先行して取り組まれているものの、行き詰まり感を否めない事業も少なからず散見されました。また、これらの調査結果については、来年3月末までに報告書を取りまとめ、その後、皆様にご提示するとともに、次期ものづくり産業振興基本計画の基礎資料として活用を図る予定でおります。それから、事業38の中小企業の事業継続計画策定に関する支援事業であります。基本的には葵区御幸町の産学交流センターにおける策定セミナー等を通じ、中小企業の支援に取り組んでおります。また、当課としましても、このようなセミナーに参加し、主催者等の各種団体との協議を重ねる中で、今後、より幅広い分野の中小企業に啓発を図れるように努めていきたいと考えております。最後に、調査研究部会が担当する5事業については、今後も関係者及び各種事業との連携や協調を図りながら、次期ものづくり産業振興基本計画策定案の検討に向けた基礎資料の整備などに努めていきたいと考えております。簡単ではありますが、調査研究部会からの中間報告は以上であります。よろしくお願いいたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。関連事項を一つ申し上げますと、昨日、産業政策課の担当の方と静岡商工会議所が取り組みを進める製造業の中小企業を対象とした支援プロジェクトについて話し合う機会がありました。これは、日頃から中小企業が抱えるさまざまな課題等について、優れたノウハウ等を有するアドバイザーが相談に乗り、解決へ導いていくための中小企業支援事業でありまして、その検討会の席上で、産業政策課から中小企業に対するBCPの策定支援についても、来年度の事業に含めてほしいとの依頼がありました。その場では、地域産業課が担当するものづくり基本計画に中小企業の事業継続計画の策定支援が含まれていることをお話するとともに、ものづくり審議会において、産業政策課、地域産業課、ものづくり審議会の関係機関が連携を図り、事業を進めて行く旨をお伝えしておきました。今後、静岡商工会議所としても真剣に取り組みますので、静岡市としての積極的なご支援をお願いできればと考えております。ひとつ、よろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

その件について、前向きに取り組ませていただきます。ありがとうございました。

【二渡会長】

では、技術者養成部会について、中間報告をお願いいたします。

(事務局：望月地域産業課主査)

技術者養成部会事務担当の望月と申します。よろしくお願いいたします。技術者養成部会では、定年延長を見越した中高年技術研修の検討をはじめ、計3つの事業を担当しており、本日はこれまでの経緯や取り組みなどに関する中間報告をさせていただきます。資料としましては、以前にお送りした事業概要書に加えまして、本日お配りした補足資料を使用させていただきますので、適宜お目通しをいただければと思います。まず、報告の順番であります。事業3と事業9については新規事業であり、それぞれに共通した事項の報告がありますので、先に事業6の方から説明させていただきます。事業6の若手後継者の技術習得支援（伝統工芸技術保存講習会）であり、これは伝統工芸界の後継者育成や伝統工芸技術の保存伝承に加え、今後の商品開発への活用を図るため、漆器、蒔絵、拭漆、竹工芸、木工指物等の講習会について、地元の若手後継者

を対象に開催しております。今年度は、漆器8名、蒔絵9名、拭漆6名、竹千筋細工8名、木工指物9名の計40名の受講者に対して講習会を実施してありまして、本日現在、すでに修了している講習会も含まれております。次に、事業3の定年延長を見越した中高年技術研修の検討であります。先ほども申し上げましたとおり、ものづくり基本計画の新規事業として位置付けられております。この事業については、中高年技術者を主体とした研修会や意見交流の促進等に向けて、他の政令指定都市の取り組み事例及びものづくり施策に重点を置く石川県金沢市などの他都市に調査を実施して情報収集を行い、その調査結果から他都市の抱える課題等を抽出し、この事業の組み立てに反映できる資料を整える方向で準備を進めております。さらに、それらを活かし、静岡市の施策として最適な事業を展開できるように努めていきたいと考えております。それから、以前にこの事業に関して部会員にご意見を伺ったところ、静岡市は具体的にどのような研修会をイメージしているのか、また、施策としての具体性を高めた方が良いのではないかとのご意見をいただきましたので、本日の補足資料に関連書籍やインターネット等で検索した他都市の事例等に関する情報を簡単に記載させていただきました。これは、現状における研修イメージの出発点として捉えていただくとともに、その点に基づきまして、以前にお送りした事業概要書を若干修正させていただきました。具体的なイメージとしましては、市内の事業所から参加者を募り、意見交流会を開催すると同時に、異業種交流会の側面を有する研修会として設定できればと考えております。異業種交流会では、定期的に講習会を開催し、併せて自社の技術的、或いは経営に関する課題を解決するための勉強会などを想定しております。そして、中高年技術者への研修を進めるにあたり、若年層の就労に影響を及ぼさないよう留意するとともに、今月12月中には他都市への調査を実施し、翌1月には調査結果の精査を含め、取りまとめていきたとも考えております。続きまして、事業9技能検定の受験及び技能五輪への参加等に向けた支援の検討であります。これは事業3と同様に新規事業として位置付けられた事業であり、現在、他都市への取り組み事例などの調査に向けて準備を進めている最中であり。この事業についても、具体的なイメージ等を示した方が良いとのご意見を部会員からいただきましたので、それらを踏まえ、本日お配りしました補足資料を部分的に修正してあります。技能検定に関する具体的な捉え方としては、事業者の人材育成を目的とする事業を助成対象とする中、現在のところ、従業員の技能向上に係る技能検定の受験や検定を控えた事前講習会への参加を想定しております。また、技能五輪に関しては、技能検定と同様に人材育成を目的とする事業を対象として、技能五輪の参加に向けて必要となる教材費等を助成することを検討しております。このような前提を踏まえ、調査を実施し、課題等を適切に整理して、静岡市に最適な事業を組み立てられるよう準備を進めていきたいと考えております。技術者養成部会の中間報告は以上であります。よろしく願いいたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。実石部会長、今の中間報告に関して補足などはありますでしょうか。

【実石委員】

経営や人材の側面から比較的余裕のある事業所であれば、取り組みやすいように思えますが、そのような事業所ばかりではないという点にも配慮が必要かと考えられます。つまり、余裕のない事業所にとっては、人材や技能を育成したくても、なかなか思うように参加できない状況にあるのではないかと考えられます。その結果、事業を始めても参加事業所が集まらない事態も懸念されますので、今後はこのような課題を乗り越えるためにも、鋭意検討を重ねていく必要があるよ

うに思えます。

【二渡会長】

今後は、そのような点を踏まえながら、事業効果を少しでも高められるように、技術者養成部会での検討をお願いいたします。

【実石委員】

分かりました。そのように努めます。

【二渡会長】

それでは、次に商品開発部会の中間報告をお願いいたします。

(事務局：高柳地域産業課主事)

商品開発部会を担当する高柳と申します。よろしくお願いいたします。商品開発部会では、部会長及びそれぞれの部会員より、一言ずつコメントをいただくことから始めていきたいと思いません。まずは、中村部会長、よろしくお願いいたします。

【中村委員】

商品開発部会で担当する事業の中に、出展者への助成事業が含まれていますが、相応の予算措置がされているものの、助成件数が減少の傾向にある点が気に掛かります。これは、出展に関する事業者側の実態と事業制度の間に乖離が生じているのではないかと、或いは実態と制度の間に必要な柔軟性が欠如しているのかとも思われます。急に制度そのものを変更することは困難なことと考えますが、事業の進捗に併せて事業者の実態を把握し、制度の対象者である事業者が活用しやすい事業の方向を踏まえて、今後、部会等で検討を進めていく必要があるように思えます。

(事務局：高柳地域産業課主事)

中村部会長、ありがとうございました。続きまして、藤田部会員、よろしくお願いいたします。

【藤田委員】

私も中村部会長と同様の意見になります。事務担当からの情報提供として、助成事業を促進させるため、より多くの事業者に制度活用を促そうとした年度があるとお聞きし、その点を踏まえて過去5年間の事業実績を眺めると、その年度以降の助成件数が以外と伸びていない状況が確認されます。また、事業予算の総額については、ほぼ定額とお聞きしておりますので、助成件数の増加を見込み、助成金額を減じたものの、残念ながら実績が伸び悩んでいる状況にあります。私は、ギフトショーなどの見本市に出掛けることが多いのですが、それほど広くないスペースを活用して、上手にアピールしているブースをよく見掛けますし、あくまでも推測になりますが、使用されているコマ等からしても、使用料はさほど高額な料金ではないものと思われま。せつかく、静岡市には出展に際した助成制度がある訳ですから、先ほど申し上げたように、事業者に出展機会の活用を図っていただく意味からも、当該制度を事業者に向けて一層周知し、浸透させていく必要があるように感じています。

(事務局：高柳地域産業課主事)

藤田部会員、ありがとうございます。中村部会長と藤田部会員からのご意見、ご提案については、後ほど、私の方から中間報告の中でお答えしたいと思います。それでは、最後に太田部会員からコメントをお願いいたします。

【太田委員】

お二人のご意見等に関連しますが、北九州市での助成事業における取り組みでは、2年に1回程度、制度を利用した事業者に対して、その利活用のしやすさや売上げ等のその後における事業成果等に関して、フォローアップを実施していたかと思えます。今後、当該事業に関して、手間は掛かりますが、利用事業者に対するアンケートを行うことで、事業者のニーズが把握できるのではないかと思います。

(事務局：高柳地域産業課主事)

中村部会長、藤田部会員、太田部会員、ありがとうございます。最後に、私の方から簡単に当部会が担当する3つの事業などについての中間報告を総括させていただきます。まず、事業12 全国規模等の見本市への出展助成強化がありますが、現在、助成事業を利用した事業者に対して、海外出展への意向に関する聞き取り調査を行っております。まだ、調査中の段階ではありますが、海外への事業展開や同じく海外で開催される展示会への出展について、事業者の約60%に前向きな意向が確認されました。また、海外進出の資金を捻出できないとのご意見も併せてお聞きしましたので、今後は事業者の海外出展に関する費用を勘案し、海外での事業展開に取り組みやすい助成制度への転換に向けて、現行制度をもとに周知を含め、検討していきたいと考えております。続いて、事業20 専門家の指導等による商品企画・開発等支援の拡充(新商品・特許)であります。今年度における商品開発分野の審査結果では3件の交付決定がなされている一方、特許等の産業財産権の分野に関しては、9月1日現在において12件の申請を受理しております。この内、産業財産権については、補助対象を従来の特許権、実用新案、意匠権に加え、商標権も新たな補助対象として事業の拡充を検討しております。さらに、事業12と事業20の共通課題として、先ほど藤田部会員からお話がありましており、事業者に対する補助制度の周知が挙げられます。現在、静岡商工会議所にPR用チラシの配置に止まっておりますが、今後は中小事業者のさまざまな会合などに出向き、事業制度の説明などを含めてチラシを配布するなど、補助制度を積極的に周知する方法を検討し、取り組んでいきたいと考えております。加えて、事業者のニーズに関しまして、静岡市内の事業者に対してヒアリングを実施した結果を参考まで申し上げますと、技術はあっても有効なPRに取り組めていないとか、資金調達の円滑化や認証取得等に関連する支援事業を実施してほしいなど、事業者の抱えるさまざまなニーズの一部を把握することができましたので、静岡市への要望等として関連施策に反映できるよう努めていきたいと考えております。それから、大学等研究機関への相談機会としては、本年11月16日に産学交流センターにおいて、静岡大学及び静岡県立大学の産学コーディネーターにより、産学連携のメリット等に係る講座を開催し、中小企業と大学等研究機関の橋渡しに取り組みました。今後も、中小事業者のニーズ等の把握に努め、大学等研究機関への相談機会の拡充に向けて検討を進めていきたいと考えております。商品開発部会としては、今後も商品開発から販路開拓までに至る事業を支援できるよう、また効果的に展開できるように努めていきたいと思えます。以上が、商品開発部会の中間報告であります。よろしく願いいたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。商品開発部会は非常に範囲が広く、内容も千差万別となり、その対応に難しさを否めませんが、現実を丁寧に見定めて、問題点を一つひとつ解決し、乗り越えてほしいと思います。よろしく願いいたします。

【中村委員】

静岡中央警察署の前あたりに山岡鉄舟が作った石柱、教導石があります。それは、問題や課題を抱えた方が質問を書き記した紙を貼り付け、答えられる方がそこに対処等を書き残すというものでありまして、一種の情報交換に関する仕組みであります。静岡市では、産学交流センターなどでさまざまな情報が提供されているものの、総じて知恵者とそれを得たい者同士のマッチングが余り円滑に進展されていないように思えます。今以上に円滑化を図るためには、両者の中間に座するガイド役が必要と思えますし、それもビルの中に常駐するのではなく、気軽に立ち寄れる場所にいつでも容易に相談できるような環境を整えることも方策の一つではないでしょうか。あくまでも例えばという前提付きではありますが、現在、JR静岡駅コンコース内に喫茶スペースが配置されていますが、その辺りに、先ほど申し上げたような相談機能について、ボランティアの活用等を含めて設けることができればと、思うところがあります。

【二渡会長】

事業者の課題等は、企業の業種や規模等により、非常に多様な範囲に及びますので、どこか一か所で全てが満たされるような環境整備は大変難しいことと推察します。しかし、困難だからと言って静観しますと事業者への支援に結び付きませんので、取り組めるところから一つずつ工夫を施しながら対応を図ることしかないように思えます。是非、このような意見も踏まえて部会を中心に取り組んでいただきたいと思えます。参考まで一つ申し上げますと、静岡商工会議所における大学等との交流事業で幾多の先生が講演されておりますが、それを聴いた事業者自ら、講演内容をもとに新たに取り組むテーマを設定するとか、自社の課題と関連付けて検討を進めるなどの具体的に大学との共同研究事業に発展させていく取り組みは、成果を伴う本物の事業に成長していくものと考えられます。大学等の研究機関と事業者との共同参画事業に数多く携わった私の経験から一例をお話すれば、当時、静岡大学の鈴木先生がお話になられた内容をもとに、数社の事業者が参集し、その後、静岡県立大学や東海大学が参画したことによって、現在の新産業開発振興機構の礎が誕生しています。その後の経過は、機構に参加する地元事業者が増える中、市や国からの補助金を受けながら、今般における駿河湾プロジェクトのほか、多数の産学官連携事業が生まれ、現在まで営まれ続けております。つまり、大学の先生が得意とする内容を一方的にお話いただくのではなく、事業者が望むテーマを大学側が感じ取り、講演等のテーマを設定するというシナリオが、その後の事業展開を模索する中で、一定の示唆を含むものではないかと考えております。まずは、事業者と大学がそれぞれ共振でき、具体的な共同研究事業を見据えられる視座が大切ではないかと考えています。ですから、このような点を考慮に入れていただき、今後の商品開発部会の議論を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

【中村委員】

分かりました。

【二渡会長】

次は、販路開拓部会になりますね。よろしく申し上げます。

(事務局：浅沼地域産業課副主幹)

販路開拓部会を担当しています浅沼と申します。よろしくお願いいたします。販路開拓部会が担当する3事業につきましては、以前にお配りした事業概要書と進捗管理票を使用して中間報告を行いたいと思いますので、適宜ご覧をいただければと思います。まず、事業11 地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進であります。JR静岡駅構内に駿府楽市が入っておりまして、その駿府楽市内にある展示コーナーを活用し、市が年間を通じて駿府楽市に企画運営を委託して、地場産品の展示販売を実施しております。今年度における4月から8月までの来客数は、209,590人を数えており、その間13回の特別展を開催しております。今後も、雛具や漆器などに関する静岡市の伝統工芸品を中心に、それぞれ2週間程度の期間を持ちまして展示会を開催する予定となっております。このような事業に対しまして、部会員の皆様からは、展示会そのものに加え、駿府楽市の取り組みも含めた幅広いPR活動を積極的に推し進める必要があるとのご意見をいただいております。特別展については、適宜マスコミから取材を受けることも多く、特にNHKが取り上げた場合、放送後に来客数が増加する傾向があるようにも聞いております。このため、マスコミに注目されるような企画展示に工夫を凝らすことのほか、効果的なPR方法なども今後検討していきたいと考えております。続きまして、事業45と事業46については、首都圏におけるプロモーションの強化という点で共通しておりますので、併せてご報告をさせていただきます。事業45については、特産品東京展示会を、また事業46についてはホビーのまちをそれぞれ対象として取り組みを進めております。まず、特産品東京展示会でありまして、例年、JR新宿駅構内のPRスペースを使用して展示販売を行っており、今年度は10月17日から19日までの3日間で開催し、好評を得ております。また、昨年度からは、静岡市ならではの逸品として認証されたしずおか葵プレミアム商品の展示販売に取り組んでおり、昨年度の売上げと比較して、今年度は若干ではありますが昨年度を上回る結果が出ております。さらに、ホビーのまちを掲げる事業46とも連携を図りまして、特産品東京展示会の会場に静岡プラモデル展というコーナーを設け、プラモデルメーカー3社から借り受けました作品を展示して、ホビーのまち静岡のプロモーション展開に取り組んだところであります。プラモデル展では、商品販売を行わず、作品の展示のみに特化しましたが、年齢や性別を問わず、多くの方が足を止め、興味深くプラモデル作品を眺めている様子が頻繁に見られました。特産品東京展示会とプラモデル展の共同企画については、来客も多く、好評であったことから来年度も継続して実施していく予定であります。それから、東京ではJR新宿駅構内のほか、山手線の秋葉原駅と御徒町駅間の高架下にあるものづくりをコンセプトとした2K540という商業施設を使用しまして、9月6日から11日までの6日間でありまして、若手伝統工芸職人による創作品の展示販売を実施いたしました。こちらは、期間中、約6,000人の来場があり、若手職人によるワークショップを開催するなど、盛況の内に終了できたため、来年度も同様に展示販売に取り組み、プロモーションの強化を進めていきたいと考えております。以上、簡単ではありますが、販路開拓部会の中間報告をさせていただきます。

【二渡会長】

ありがとうございました。山梨部会長、何か補足事項はありますでしょうか。

【山梨委員】

朝の早い時間帯だったのですが、新宿駅の特産品東京展示会に出向きまして、様子を見てまいりました。展示販売会場としては、非常に良い場所であったと思いますが、もう少し活気があれば、展示販売を促進できるのではないかという印象を持って帰ってまいりました。それから、しずおか葵プレミアムの認証品が全て販売されていなかった点に加え、プラモデルは展示のみで商品の販売に取り組みられていなかった点も点残念でありました。もう少し賑やかさを醸し出す何らかの工夫があったら、より良い展示販売会になるのではという感想を持ちました。

【二渡会長】

一つお尋ねしますが、特産品東京展示会の企画や実施主体はどこが担っているのでしょうか。

(事務局：三輪地域産業課長)

静岡特産工業協会に委託して実施しています。

【二渡会長】

分かりました。基本的には業界が自ら販路を確保し、売上げを伸ばすことに努めていく事業という認識でよろしいですね。

【山梨委員】

そのような認識で良いと思います。当部会の前に中間報告をされた商品開発部会とか、この後のPR促進部会とも関連性があるものと思われますので、これらが事業効果の創出に向けて、上手に連携して事業を推進させることを考慮していかなければならないと思います。

【二渡会長】

山梨委員の言われる事業や部会間の連携は、今後、重要性を増していくものと思われます。また、当該事業は企業や団体が取り組む自助努力に対して、市などの関連機関がどのように応援を施していくのかという点についても考えていく必要がありますね。

【山梨委員】

具体的には、市がいかなる支援をどの程度の内容を持って取り組むのかという点を考えていくことが大切であるように思えます。

【二渡会長】

企業や団体の動機付けも、併せて思案していく必要もあろうかと思えます。そのあたりは、非常に難しい事案ではありますが、販路開拓部会を中心に他部会との連携を図りつつ、熱心に議論を重ねてほしいと思います。それでは、最後になりましたPR促進部会からの中間報告をお願いします。

(事務局：山田地域産業課主任主事)

PR促進部会事務担当の山田と申します。よろしくお願いたします。PR促進部会では、事業7伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進事業をはじめとして、計3つの事

業を担当しております。まず、事業7 伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進事業では、今年度新たに張下駄の丸山様の指定を進めており、関係者との調整を図っているところでもあります。PR活動については、現在、駿府匠宿の工芸館及び別館における展示や伝統工芸技術秀士紹介ビデオの放映を行っているほか、市内各所での企画展や首都圏における展示など、PR活動を順次進めているところでもあります。また、展示以外の手法では、個別に中学校で出前講座を開催するなど、技術秀士並びに伝統工芸の魅力について情報発信に努めており、今後もさまざまな場面や方法により充実化を図ってまいります。次に、事業48 市民向けものづくり体験・学習イベントの推進であります。こちらは小学4年生が授業の一環として、竹細工や指物などといった地場産品の創作キットを使用した体験学習を支援するものであります。現在、51校、3,900人以上の申請を受け付けておまして、10月から来年3月にかけて、各学校主体での実施が予定されております。それから、事業49 ものづくり現場企業見学会であります。新規に事業を進めるにあたり、関連の事業環境を把握するため、8月から9月にかけて幾つかの企業の工場見学に参加したほか、市内の伝統工芸、地場産業、製造業の見学会や体験学習に関する情報の収集にあたっております。今後は、実施主体、参加対象者、ご協力をいただく企業などの情報整理に努め、順次進めてまいりたいと考えております。今後のPR促進に関しての方針についてありますが、改めて情報収集を進める中で、それぞれの運営主体における販売促進、就労者の確保、地域への貢献などの目的のもと、PRの媒体、方法、時期などの情報が点在しているように思えます。ありきたりの言葉ではありますが、情報の整理に加え、情報及び関係者間の連携という観点到に主眼を置き、当課の事業だけでなく、他の事業との関連性を含めて進めていきたいと考えております。最後に、この場をお借りして恐縮ですが、皆様にお願ひがあります。何か良い取り組みや事例などをご存知でありましたら、私までお知らせいただければと思います。例えて言えば、これまでに皆様が協力されたり、参加されたり、見聞きしたもので結構であります。その他、これは魅力的で有意義であったと感じられたPRの事例などがありましたら、お教えいただきたいと思ひます。正直、私自身、現在のところ見聞きする範囲を手探りで模索している最中であります。重複いたしますが、このイベントやPR方法は他と違い、この点が評価できるなど、何かPR事業を考える上で参考となる事項をいただけますと、非常に助かりますし、嬉しく思ひます。以上、簡単ではありますが、PR促進部会の中間報告とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。本日は、PR促進部会の杉山部会長が先ほど所用で退席されましたので、部会長からの補足説明はありませんが、ポイントを一つお話ししたいと思います。昨今、子供の理系離れが大きな懸念材料として、時折、マスコミに取り上げられますが、そのような中、日立が教育現場に根ざした理数教育を施すために、NPO法人日立理科クラブを立ち上げました。これは、現在の教育現場が苦慮している理科の授業に、企業のOBが外向いて、実験等の授業をサポートし、子供達への理数教育の充実化を図ろうという内容のものであります。これまでの取り組みを聞く限り、理科の実験等にOBが外向むく事業や会社の一角で開催されるものづくり事業などは、各地の学校などから好評を博していると同っております。こちらは、企業が全面的にバックアップして取り組んでいる事業であるので、PR促進部会の事業とはダイレクトに関連しているとは言いにくい側面はあるものの、ものづくりのPR活動やOBの活用活躍などにおいて、学ぶべき点や連携すべき点が多々あるように思えます。参考情報ではありますが、是非一度、清

水区にある日立アプライアンスへ連絡を取っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：山田地域産業課主任主事)

分かりました。ありがとうございます。

【二渡会長】

ここで、全体を通じて議論しておくべき点などはありませんでしょうか。実石部会長、何かございますか。

【実石委員】

先ほどのお話にもありましたが、事業効果を創出するために、個々の事業をどのように連携させるのかという点が、本日の審議会で非常に考えさせられた点であります。私は、技術者養成部会の部会長であるとともに、この審議会には静岡家具工業組合の代表として出席させていただいております。その点からお話をさせていただければ、昨日のことではありますが、若手従業員等と議論したことを簡単にお話したいと思います。このツインメッセを会場として、毎年KAGUメッセが開催されておりますが、これに連動して、例えば同時期にJR静岡駅の駿府楽市で何らかのPR活動に取り組めないかとか、これ以外にもさまざまな意見が聞かれました。部会や審議会を取り扱う事業は、それぞれが一つの事業として成り立ってきた経緯もあり、それぞれに事業効果を創り出してきているものと思われまので、直ちに関連事業を連携させることは難しいことと推測されます。しかし、それぞれの業界が独自に取り組む、或いは取り組める事業も相応にあるかと思っておりますので、本日、お聴きした事業などとの連携を図り、少しでも双方に有益な効果をもたらされる結果を目指して、少しずつ進めていければと改めて認識した次第であります。それから、情報の確認を要しますが、教育の側面では清水の高等職業訓練校の木工課程が無くなったようにも伺っております。ものづくり基本計画では、技術者の養成に取り組もうとしている最中であるにも関わらず、そのようなことが事実であれば、非常に残念なことと思っております。

【二渡会長】

是非、今の実石部会長の意見を参考として、今後の取り組みを進めてほしいと思います。他に、何かありますでしょうか。

【山梨委員】

産学官の連携に取り組む際に、最も困ることは相談する先が分からないということでもあります。私の会社は、その点を県の工業技術センターに担っていただき、その後の事業運営に結び付けた面があります。商品開発部会が担当する大学等研究機関への相談機会の拡充では、特にその点の充実化を図る方向でご検討いただければと思います。例えば、駆け込み寺ではありませんが、どこに相談したらいいのか分からない事案は、取りあえず地域産業課に出向いて相談を持ち掛けてみれば、その後の道案内等を支援してくれるという機能を持たせるなど、総合相談窓口のような役割を担う部署等を検討してほしいと思っております。逆に、大学等の先生方もさまざまな企業から相談を持ち掛けられても困ることが多いのではないかと思いますので、それらの調整機能を含めた窓口の設置をご検討いただければと考えております。

【二渡委員】

相談先で言えば、静岡商工会議所の清水事務所内に新産業課がありますが、そこは新産業開発振興機構を担当しています。そこは、すでに市内の大学をはじめ、商品開発等の分野で連携を図っておりますので、相談機関の一つになるかと思えます。市内で事業を営まれる事業者のほとんどは、静岡商工会議所の会員であろうと思えますので、事業者の抱える問題を相談できるツールとして活用していただければと思えます。

【山梨委員】

静岡商工会議所の担当エリアと静岡市の行政区域は、全て合致していないことに留意する必要があります。私の会社は清水区の興津にありますが、そこは静岡商工会議所の担当エリアから外れております。今、お話に出された事業者の抱える問題を相談できる機構や機能については、使用できる会社とすぐに使用できない会社があるという前提をあらかじめ認識しておく必要があるように思えます。そのような機能等が使用できない会社の相談先として、市が総合的な窓口を設けることも、今後、考えていく必要があるのではないかと思います。

【二渡会長】

山梨委員のご指摘は、そのとおりでありますね。本日の短い時間内で、それぞれに何らかの結論を導くことは難しいことと思われますので、今後の重要な課題として皆様と議論を進めていければと思えますが、いかがでしょうか。

【中村委員】

市内の事業者が気軽に訪れて相談できる機能や場所について、事業者、静岡商工会議所、地域産業課、ものづくり審議会などの関係者による多様な思考の中で考えていければと思えます。

【二渡会長】

静岡商工会議所には、さらにオープン化を進めていただき、多くの事業者が気軽に新産業開発振興機構などに相談できるように取り組む必要があると同時に、市の地域産業課においても、その点を静岡商工会議所と十分に協議し、連携を強めて対応を図ることも検討してほしいと思えます。

(事務局：三輪地域産業課長)

今、お話された状況については分かりましたので、今後、静岡商工会議所と連携し、事業者のニーズに応える取り組みを進めてまいりたいと思えます。また、当課では相談事のワンストップ化にも努めている最中でありますので、ご相談をいただければ出来る限りの対応を図りたいと考えております。

【二渡会長】

皆様、そろそろよろしいでしょうか。この後の議事もありますので、次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。それでは、今後のスケジュールについて、事務局に説明を求めます。よろしく願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

今後のスケジュールについて、簡単にご説明申し上げます。各種事業の進捗管理については、年明け1月に当課を含む事業担当課へ、3月末時点での事業の進捗見込みを想定した進捗管理票の作成と提出を依頼する予定でおります。その後、それらの集計などを経まして、2月中下旬にものづくり審議会を開催し、今年度における各種事業の進捗管理を取りまとめていきたいと考えております。その後、ものづくり条例に基づきまして、3月中に市議会への報告を併せて行いたいと考えております。このようなことから、皆様には今年度、年明けの2月に再度お集まりいただくことを予定しておりますので、年度末に近付くお忙しい時期に申し訳ございませんが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。今後のスケジュールについては、以上であります。よろしくお願いいたします。

【二渡会長】

年度末近くでの審議会の開催にあたり、日程調整が大変かと思いますが、可能な限り、それぞれの事情を汲み取っていただきながら、開催日等を決めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。最後に事務連絡であります。委員の皆様から何かありましたら、よろしくお願いいたします。事務局の方は、いかがですか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務局からは、特にありません。

【二渡会長】

再度、皆様にお尋ねいたしますが、よろしいですか。無いようですので、この後は事務局にお願いいたします。

(事務局：三輪地域産業課長)

本日は、当課担当事業の中間報告に関しまして、ご審議をいただき、誠にありがとうございました。今後のスケジュールでもお伝えいたしましたが、年明け2月のものづくり審議会にご出席くださいますようお願いいたします。本日は、ありがとうございました。これをもちまして、第5回静岡市ものづくり産業振興審議会を閉会といたします。

本会議録は、平成24年11月30日開催の「第5回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会長 _____

委員 _____